

# 浄土真宗教法寺

北浦道（きたうらみち／現通称・北浦街道）と赤間関（あかまがせき）の本通りが交差する場所に建つ。当山は、鎌倉時代「元応年間（一一一九年〜）」に創建された浄土真宗寺院である。

北浦道とは、教法会館通りより旧裏町の緩やかな坂を上り現奥小路公園を横切り旧奥小路町を抜け現赤岸通りへと続く北浦からの行商の方たちが利用されていた道の一つである。現在は戦後（太平洋戦争）の区画整理や公園整備などで、当時の景色を感じさせるものは多くは残っていない。

当山で現存している建物は、焼失を一部免れた教法会館（大正十二年落慶）が姿を残すのみである。当時の絵葉書（①教法会館落慶記念・②紅石山より市街地を望む・③明治四十三年頃の裏町）の中で焼失前の姿を少し偲ぶことができる。

当山は唐戸湾が埋め立てられる遥か昔、浜辺に流れ着かれた御木仏をご安置するために創建され、現代まで脈々と守られ、受け継がれています。

慶長二年（一六〇一年）ご本山（西本願寺）よりご本尊と寺号を賜り下関で浄土真宗の草分け的寺院であるとともに長門地方でも、もつとも早く公認された浄土真宗寺院である。また、当山由緒書（明治二年筆）によると六代目萬隨に長府のお殿様（毛利匡広公）ご媒酌で、国元の奥方（師就公の生母）の妹君がお輿入れされたこと、そのご縁で毛利匡広公を始め、

毛利家六人のご位牌のおもりを頼まれたこと、様々な品を頂いたこと、後には、【在三ヶ寺（長府功山寺・笑山寺・日頼寺）並の寺格】を許された事などが書かれております。

終戦当時の住職（故釋了道）によると寺宝も数多くあったようですが、ほとんどを戦災で焼失したと、申しております。

現存するものはあまり多くありませんが、一部をご紹介しますと、毛利家関係では、【お輿入れ道具の一部】・毛利秀元公が文禄の役の折お立ち寄りになられた際頂いた品々の中の一点【細川玄旨短冊】・沢庵宗彭和尚の書状を差し上げたお札に頂いた【毛利元義公 御染筆御面護】の三点

ご本山（西本願寺）関係では、親鸞聖人・蓮如上人から託されたご直筆の【九字・十字合幅名号】【六字名号】【ご絵像】などが残っております。

近年ではお寺離れが叫ばれる中、現代版でらこ屋で各種体験を提供し幅広い世代の方々に足を運んで頂いています。

数々の歴史が交差する、歴史の交差点下関と共に歩み、時折歴史のシーンにも姿を見せませす。創建以来約七〇〇年この地を見守り続けています。

お近くにいらした際は是非お立ち寄り下さい。歴史の鼓動を感じていかれますか。

二〇二一年二月

教法寺住職筆



②紅石山より市街地を望む



①教法会館落慶記念



③明治四十三年頃の裏町

◎右側の建物が、教法寺事件当時に建っていた本堂で、昭和20年(1945)の下関空襲により全焼。現在の本堂は昭和43年(1968)に再建。  
◎正面の白い建物は、大正12年(1923)に落成された教法会館で、一部は現在も残っている。

## 教法寺事件

文久3年（1863）8月16日、阿弥陀寺（現在の赤間神宮）を屯所としていた奇兵隊が、萩藩正規軍の先鋒隊宿所であった教法寺を襲い、先鋒隊士が切り殺される事件が起きました。この事件後、騒動の責任をとって宮城彦輔は切腹、奇兵隊も秋穂への転陣を余儀なくされます。さらに、高杉晋作は奇兵隊總督を免じられました。